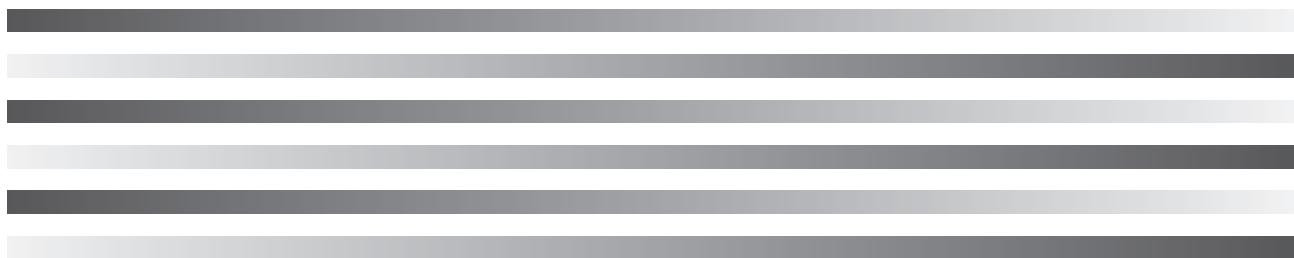




ヤマハピアノ 消音ユニット

RSGシリーズ

取扱説明書



安全上のご注意

お使いになるまえに、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



注意

感電の恐れあり
キャビネットをあけるな



注意: 感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。この機器の内部には、お客様が修理／交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。

- △ 記号は、**危険、警告または注意**を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。
- 記号は、**禁止行為**を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。
- 記号は、**行為を強制または指示**することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



警告

電源／電源コード



本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

プラグを抜く 感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。



使用中に電子音が出なくなったり、異常ににおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

プラグを抜く 感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。



ACアダプターは、必ず付属のものを使用する。
ほかのACアダプターを使用すると、発熱や感電の原因になります。



電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など、交流200Vのものがあります。誤つて接続すると、感電や火災のおそれがあります。

設置



浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。

使用禁止 感電や火災、または故障の原因になります。



本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

水禁制

こぼれたり、中に入ったりした場合、感電や火災、または故障の原因になります。

分解禁止



本機の内部を開けたり、内部の部品を分解、改造したりしない。

分解禁止

感電や火災、または故障の原因になります。異常を感じた場合は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網に点検修理をご依頼ください。

お手入れ



お手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

プラグを抜く

感電のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

必ず行う

感電やショートのおそれがあります。



ユニット類を拭く場合は、乾燥した布を使用する。

必ず行う

感電や火災、または故障の原因になります。

⚠ 注意

電源／電源コード

-  **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
ぬれ手禁止
感電のおそれがあります。
-  **電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを載せない。**
電源コードが破損して、感電や火災の原因になります。
-  **タコ足配線をしない。**
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりすることがあります。
-  **電源コードやプラグが傷んだときは使用しない。**
感電やショート、発火などの原因になります。
-  **長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。**
プラグを抜く
感電やショート、発火などの原因になります。
-  **電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。**
必ず行う
電源コードが破損して、感電や火災の原因になります。

移動

-  **本機を移動するときは、引きずらない。**
禁止
床を傷つけるおそれがあります。
-  **本機を移動するときは、必ず電源コードなどのケーブルをすべて外したうえで行う。**
必ず行う
コードを傷めたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。
-  **本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。**
必ず行う
けがをするおそれがあります。
-  **本機を移動するときは、ゆっくりと丁寧に行う。**
必ず行う
本機が転倒したり、周囲のものと衝突したりするおそれがあります。本機の運搬、移動は専門の業者に依頼することをおすすめします。

使用上の注意

-  **本機の上に乗せたり、重いものを載せたりしない。また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。**
禁止
本機が破損する原因になります。
-  **機器の開口部やすき間、鍵盤のすき間などから、金属や紙片などの異物を入れない。**
禁止
感電、ショート、火災や故障の原因になります。
-  **大きな音量で長時間使用しない。**
禁止
聴力障害の原因になります。特にヘッドフォンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。
-  **本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は両手で静かに行う。また、自分の周りの方が不注意に鍵盤蓋に触れないようにする。**
必ず行う
鍵盤蓋に手や指を挟み、けがをするおそれがあります。
-  **地震のときは、本機から離れる。**
必ず行う
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、けがをするおそれがあります。

設置

-  **不安定な場所に置かない。**
禁止
機器が転倒して、故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
-  **直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高いところ、逆に極端に温度が低いところ、またはほこりや振動が多いところで使用しない。**
禁止
外形が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
-  **通風孔をふさがない。**
禁止
内部に熱がこもり、火災の原因になります。
-  **テレビやラジオ、スピーカーなど、ほかの電気製品の近くで使用しない。**
禁止
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

接続

-  **ほかの機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切ったうえで行う。また、電源を入れたり切ったりするまえに、必ず機器のボリュームを最小（0）にする。**
必ず行う
感電や機器の損傷のおそれがあります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

ご使用になる前に

このたびは、ヤマハピアノ消音ユニットをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- ・ この取扱説明書と保証書は大切に保管し、使い方がわからないときや調子が悪いときにお役立てください。
- ・ お買い上げいただいた際、保証書は「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ずお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。

本機の特長

ヤマハピアノ消音ユニットは、長年にわたる楽器づくりの経験と高度なエレクトロニクス技術を結集して開発した装着型ピアノ消音装置です。お持ちのピアノに取り付けることにより、普段は通常のピアノとしてお使いいただけるほか、夜間などにはピアノの音を消し、ヘッドフォンを通して音を聴きながらの消音演奏を可能にします。

当社独自の搭載システムにより、消音演奏時にも高い表現力でピアノ演奏をお楽しみいただけます。ご使用にあたりましては、本書をご参考にしていただき、ヤマハピアノ消音ユニットを十分にご活用いただけますようお願い申し上げます。

目次

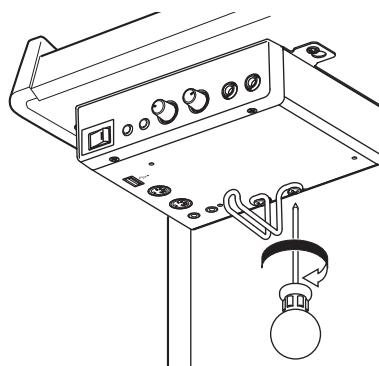
ご使用になる前に	4	USB メモリーの曲を再生する	16
本機の特長	4	試聴曲を再生する（試聴モード）	16
目次	4	他の機器との接続	18
付属品	5	他のオーディオ機器と接続する	18
ヘッドフォンハンガーの取り付け	5	AUX 出力（AUX OUT）端子の 使用例	18
専用 AC アダプターの接続	5	AUX 入力（AUX IN）端子の使用例	19
各部の名称	6	他の MIDI 機器と接続する	20
演奏時の操作	7	MIDI 出力（MIDI OUT）端子の 使用例	20
消音演奏をする	7	MIDI 入力（MIDI IN）端子の使用例	20
音色を選ぶ	8	その他の情報	21
音色のバリエーション	8	故障かな？と思ったら	21
デュアルボイス	9	エラー通知について	22
ブリリアンスを調整する	9	音色一覧	22
リバーブをかける	10	試聴曲一覧	23
ピッチを合わせる	10	各音色の MIDI データ (プログラム チェンジナンバー)	24
DDE (ダイナミック・ダンパー・エフェクト) をかける	11	MIDI ファイルの再生順序	24
すべての設定を工場出荷時の値に戻す (オールリセット)	11	仕様	25
録音と再生	12	取り扱いについて	26
演奏を録音する	12	MIDI インプリメンテーション チャート	27
内蔵メモリーに録音した曲を再生する	13	保証とサービスについて	裏表紙
USB メモリーを接続する	14		
録音済みのデータを USB メモリーに 保存する	15		

付属品

- 専用ACアダプター (PA-150AまたはPA-150B) × 1個
- ヘッドフォン × 1個
- ヘッドフォンハンガー × 1個
- ヘッドフォンハンガーリー取り付けねじ × 2個
- 取扱説明書 (本書)
- 楽譜集「ピアノで弾く名曲50選」

ヘッドフォンハンガーの取り付け

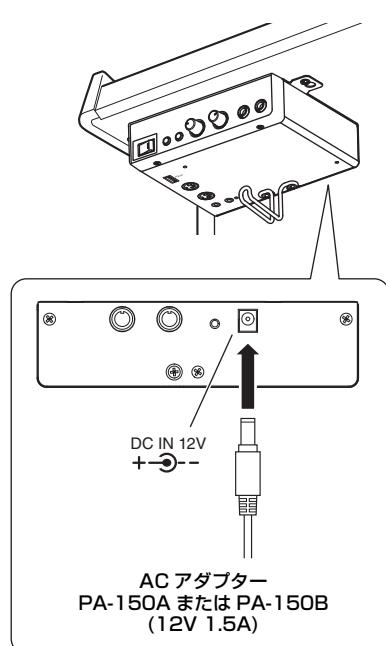
必要に応じて、付属の取り付けねじ2個でスイッチボックスの下側に取り付けてください。



専用 AC アダプターの接続

付属のヤマハ製PA-150AまたはPA-150Bをご使用ください。

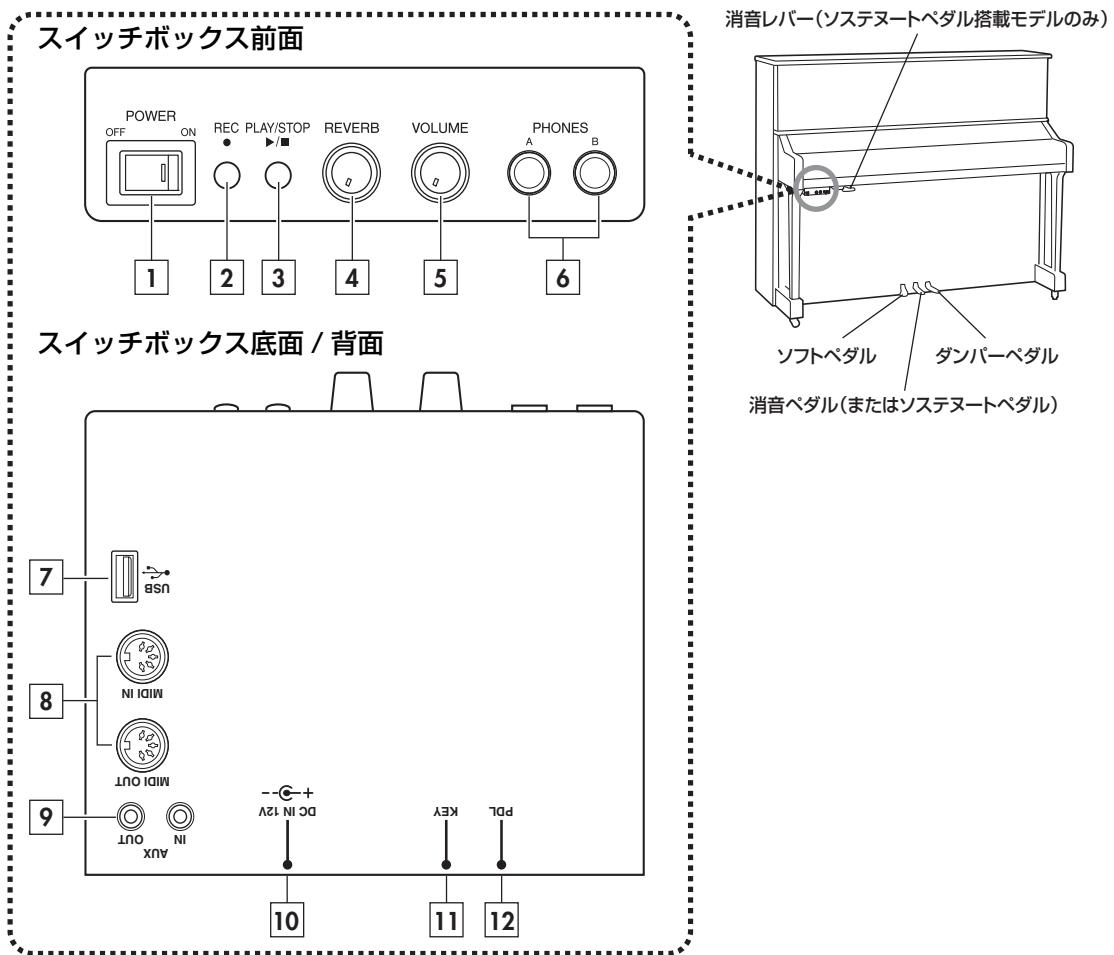
ACアダプターを本体スイッチボックスの背面の「DC IN」に接続してください。



ご注意

- コード部を引っ張ったり、コードの根元部を曲げたりしないでください。
- また、コード部がピンと張った状態やコードの根元部が曲がった状態で使用しないでください。断線の原因となります。
- ACアダプターを抜き差しする場合は、必ず本体の電源を切ってから行ってください。
- 本体を移動させる場合は、ACアダプターをコンセント、本体からはずしてから行ってください。
- 長時間使用しない時は、プラグをコンセントから抜いてください。
- プラグ部分が外れるタイプの電源アダプターをお使いの場合は、安全にお使いいただくため25ページの注意事項を確認いただいたうえ、ご使用ください。

各部の名称



■ スイッチボックス前面

1 電源スイッチ (POWER)

電源をオン／オフします。

2 録音ボタン (REC)

本機を録音待機の状態にします。ボタンとランプ兼用で、ランプの点灯の種類により録音状態を表示します。

3 再生／停止ボタン (PLAY/STOP)

再生のスタート／停止をします。ボタンとランプ兼用で、ランプの点灯の種類により本機の状態を表示します。

4 リバーブ調整ツマミ (REVERB)

リバーブの深さ（かかり具合）を調節します。

5 音量ツマミ (VOLUME)

ヘッドフォン端子からの出力の音量を調節します。

6 ヘッドフォン端子 (PHONES: 標準ジャック)

ヘッドフォンを接続します。2本まで同時に使えます。

■ スイッチボックス底面 / 背面

7 USB 端子 (USB TO DEVICE)

USB メモリーを接続します。

8 MIDI (IN/OUT) 端子

外部 MIDI 機器の出力端子／入力端子と接続します。

9 AUX (IN/OUT) 端子 (ミニジャック)

外部オーディオ機器の出力端子／入力端子と接続します。

10 DC IN 端子

付属のACアダプターを接続します。

11 KEY 端子

キーセンサー用の端子です。

12 PDL 端子

ペダルセンサー用の端子です。

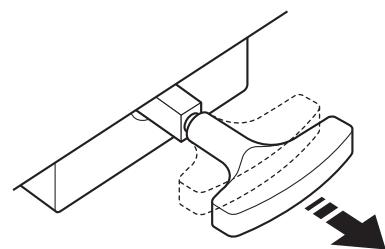
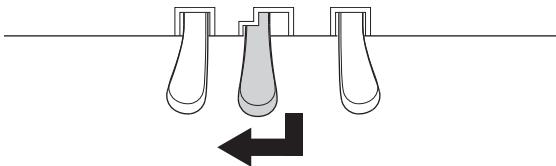
演奏時の操作

消音演奏をする

- 1 消音ペダルを下に踏み込んでから左側にセットします。

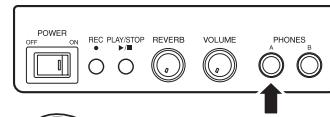
ソステヌートペダル搭載モデルの場合：
消音レバーを「カチッ」と音がするまで
手前に引きます。

これでピアノの音は消えます。



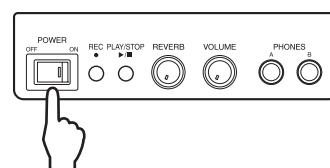
- 2 ヘッドフォンをヘッドフォン端子 (PHONES) に接続します。

同時に2本接続できます。



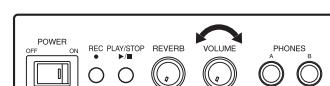
- 3 電源スイッチをオンにします。

緑色のパイロットランプが点灯します。



- 4 音量ツマミ (VOLUME) で音量を調整します。

右に回すと音が大きく、左に回すと小さくなります。



ご注意

耳の保護のため音量の上げ過ぎにはご注意ください。また長時間のご使用は避けてください。

音色を選ぶ

消音演奏では、本機の内蔵音色を使ってピアノ以外の音色で演奏することができます。

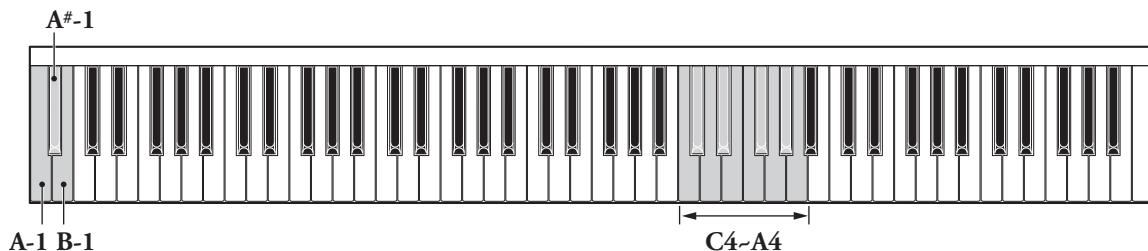
音色の種類	設定方法
ピアノ（初期設定）	A-1、A#-1、B-1を押しながら、C4を押す
ハープシコード	A-1、A#-1、B-1を押しながら、D4を押す
ビブラフォン	A-1、A#-1、B-1を押しながら、E4を押す
パイプオルガン	A-1、A#-1、B-1を押しながら、F4を押す
チェレスター	A-1、A#-1、B-1を押しながら、G4を押す
ストリングス	A-1、A#-1、B-1を押しながら、A4を押す
エレクトリックピアノ1	A-1、A#-1、B-1を押しながら、C#4を押す
エレクトリックピアノ2	A-1、A#-1、B-1を押しながら、D#4を押す
ジャズオルガン	A-1、A#-1、B-1を押しながら、F#4を押す
クワイア（合唱）	A-1、A#-1、B-1を押しながら、G#4を押す

メモ

- 音色を選択する鍵盤を押すと、切り替え後の音が出ます。
- 選択した音色は電源をオフにすると解除され、次に電源をオンにするとピアノに戻ります。
- 音色の詳細は22ページ「音色一覧」をご参照ください。
- 同時に2つの音色を選択することもできます。9ページ「デュアルボイス」の項をご参照ください。

ご注意

- 音色切り替えは演奏時のみで、再生音には使用できません。
- ピアノ以外の音色では、ソフトペダルによる弱音処理ではなく、音色バリエーションの切り替えとなります。
- ピアノ以外の音色では、最低音3キーの音量を意図的に下げています。



音色のバリエーション

ピアノ以外の音色選択時は、音に変化をつけたバリエーションをお楽しみいただけます。

バリエーションの詳細は22ページ「音色一覧」をご参照ください。

ソフトペダル（一番左端のペダル）を踏むたびに、ノーマル（標準）とバリエーションが切り替わります。

切り替え時にPLAY/STOPランプが瞬間に点灯します。緑色のときは標準音が、橙色のときはバリエーションが設定されたことを示します。

音色ごとに切り替えでき、電源をオフにすると解除されます。

デュアルボイス

2つの音色を重ねて演奏する機能です。

同時に2つの鍵盤を押して2つの音色を選びます。

ご注意

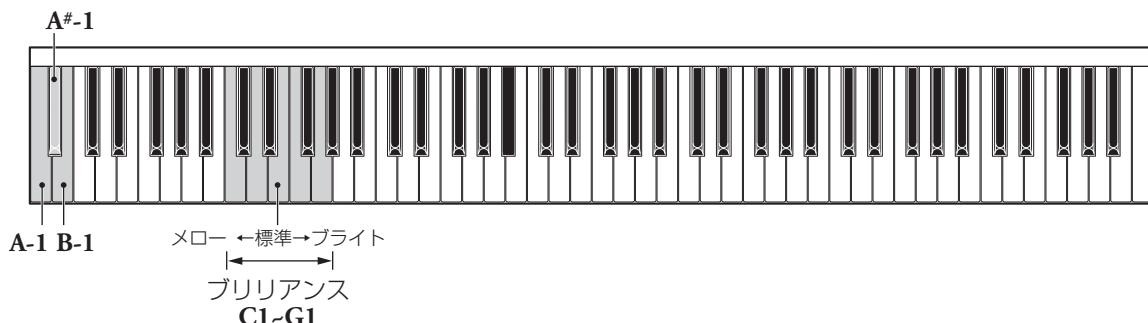
デュアルボイス演奏では2つの音を重ねるため、同時発音数が半分に減ります。

ブリリアンスを調整する

メロー（柔らかくまろやかな音）からライト（明るく鋭い音）の間で音質を調整します。

操作	設定方法
ブリリアンスを調整する (5段階可変)	A-1、A#-1、B-1を押しながら、C1/D1/E1/F1/G1のいずれかを押す。(E1が標準で、C1側はよりメローに、G1側はよりライトになります。初期設定はE1です。)

この設定はすべての音色に共通で反映され、電源をオフにしても保存されます。

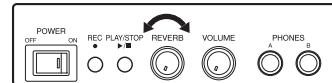


リバーブをかける

リバーブとは、音に残響をつけて音の響きを豊かにすることです。

リバーブの深さ（かかり具合）をリバーブ調整ツマミ（REVERB）で調節します。

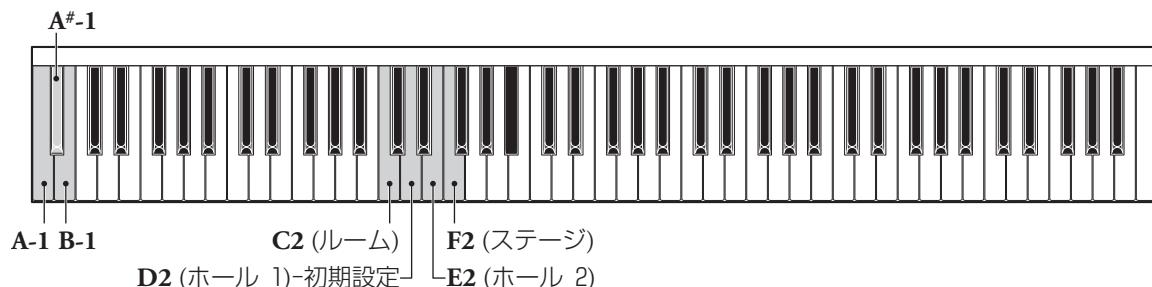
オフにしたい場合はツマミを左一杯まで回してください。



リバーブの種類を選ぶこともできます。

リバーブの種類	効果	設定方法
ルーム	響きやすい部屋の中で弾いたときのような音	A-1とA#-1とB-1を押しながらC2を押す。
ホール1 (初期設定)	小さなコンサートホールにいるような響き	A-1とA#-1とB-1を押しながらD2を押す。
ホール2	大きなコンサートホールにいるような響き	A-1とA#-1とB-1を押しながらE2を押す。
ステージ	ステージにいるような響き	A-1とA#-1とB-1を押しながらF2を押す。

リバーブの種類の設定は電源をオフにすると解除され、次に電源をオンにするとホール1に戻ります。

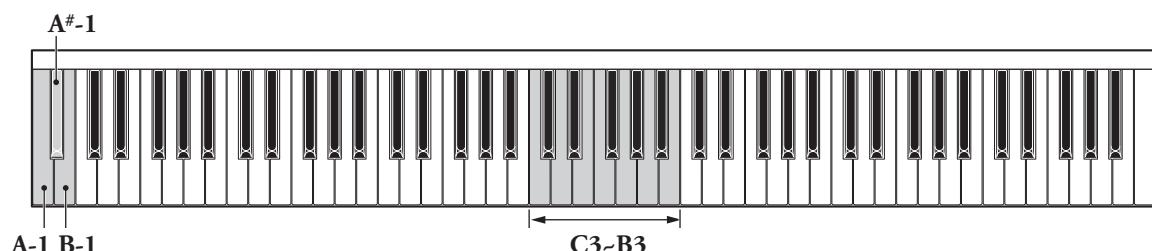


ピッチを合わせる

本機の工場出荷時のピッチ（音程）は、一般的な標準ピッチのA3=440ヘルツに設定されています。声楽や他の楽器と合わせるときなど、あえてピッチを変更する場合は、半音を100セントとして上下65セントまで、1セント単位で調整することができます。

操作	設定方法
ピッチを上げる	A-1とB-1を押しながら、C3からB3までのいずれかの鍵盤を押す。
ピッチを下げる	A-1とA#-1を押しながら、C3からB3までのいずれかの鍵盤を押す。
工場出荷時のピッチに戻す	A-1とA#-1とB-1を押しながら、C3からB3までのいずれかの鍵盤を押す。

ピッチの設定は、電源をオフにしても保存されます。



DDE（ダイナミック・ダンパー・エフェクト）をかける

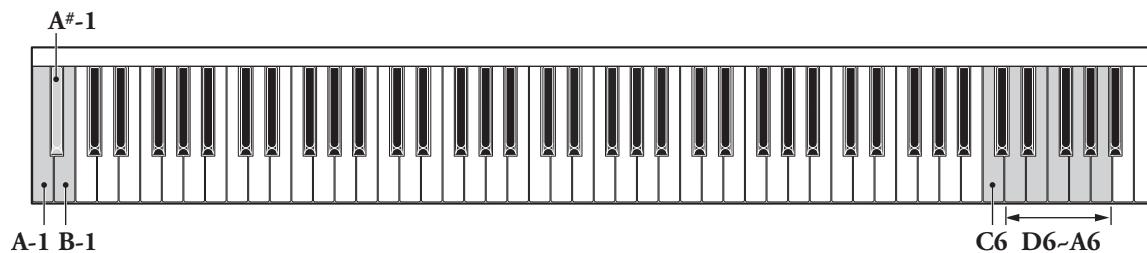
DDE（ダイナミック・ダンパー・エフェクト）とは、アコースティックピアノのダンパー・ペダルを踏んだときのような共鳴効果のことです。

操作	設定方法
DDEをオフにする	A-1とA#-1とB-1を押しながらC6を押す。
DDEをオンにする (5段階可変)	A-1とA#-1とB-1を押しながら、D6、E6、F6、G6、A6いずれかの鍵盤を押す。 (効果はA6が最も深く、D6が最も浅くなります。初期設定はE6です。)

DDEの設定は、電源をオフにしても保存されます。

メモ

DDEをオフにしても、ダンパー・ペダルを踏んだときのように音は伸びますが、共鳴効果はありません。

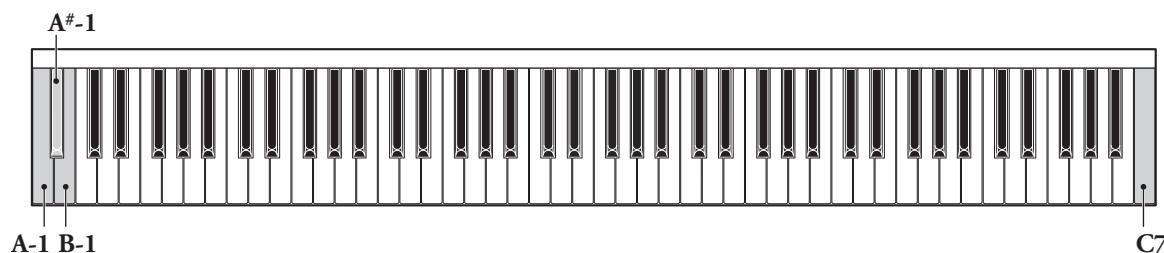


すべての設定を工場出荷時の値に戻す (オールリセット)

すべての設定を、一度に工場出荷時の値に戻すこと（オールリセット）ができます。

A-1とA#-1とB-1を押しながらC7（いちばん右の白鍵）を押します。

音色のバリエーション、ブリリアンス、リバーブの種類、ピッチ、DDEの設定が工場出荷時の値に戻ります。



録音と再生

演奏を録音する

本機は、内蔵メモリーに1曲分の録音ができます。

メモ

- ・録音の容量は約65キロバイト（約21,000音符）分で、目安としては標準的な曲で約25分、音符の密度の高い（激しい）曲で5分です。
- ・録音には演奏時に選ばれている音色の情報も保存されます。
- ・録音データは、電源をオフにしても、オールリセットをしても保存されます。

ご注意

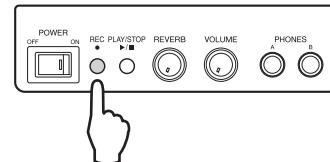
- ・新規録音時には以前の録音は消去されます（ただし、録音待機状態で何も演奏せずにキャンセルしたとき（下記手順1）は、以前の録音は消去されません）。消去したくない録音データは、USBメモリーで必ずバックアップを取ってください。詳細は15ページ「録音済みのデータをUSBメモリーに保存する」をご参照ください。
- ・USBメモリー接続時は録音できません。あらかじめ外しておいてください。

1 録音ボタン（REC）を押します。

本機は録音待機状態になり、RECランプが赤く点灯、PLAY/STOPランプが緑色に点滅します。

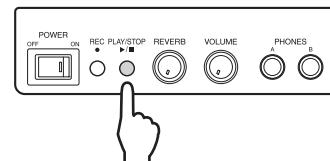
メモ

ここでもう一度録音ボタン（REC）を押すと、録音待機はキャンセルされ、通常の状態に戻ります。



2 再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

PLAY/STOPランプが緑色に点灯し、録音を開始します。



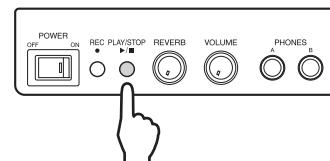
3 演奏を開始します。

録音中に内蔵メモリーの残量が少なくなるとチャイムが鳴ります。

残量がなくなると、チャイムが早く鳴り、自動的にデータ書き込みを開始します。

4 演奏を終了し、再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

録音ボタン（REC）を押しても同様に録音が終了します。RECランプが素早く点滅し、データが書き込みされます。終了するとRECランプが消灯します。データの書き込みには数秒から数十秒かかります。



ご注意

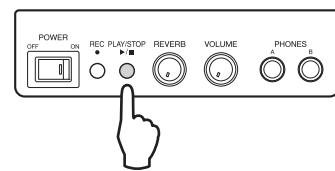
RECランプ点滅中は電源をオフにしないでください。内蔵メモリーやデータが壊れるおそれがあります。

内蔵メモリーに録音した曲を再生する

本機は録音データや試聴曲を再生できます。

再生／停止ボタン (PLAY/STOP) を押します。

PLAY/STOP ランプが緑色に点灯し、再生を開始します。



■ 再生を停止するには

再生中に再生／停止ボタン (PLAY/STOP) を押します。

■ 一時停止するには

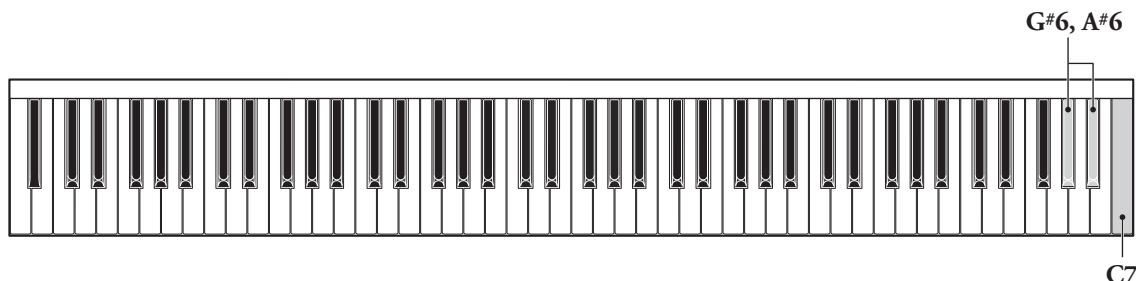
再生中に C7 を押します。

PLAY/STOP が点滅になります。再生を再開するには、C7 か再生／停止ボタン (PLAY/STOP) を押します。

■ 早送りするには

再生中または一時停止中に、G#6 を押しながら A#6 を押します。

A#6 を押している間早送りになり、PLAY/STOP が速い点滅になります。A#6 を離すと操作前の状態（再生または一時停止）に戻ります。



メモ

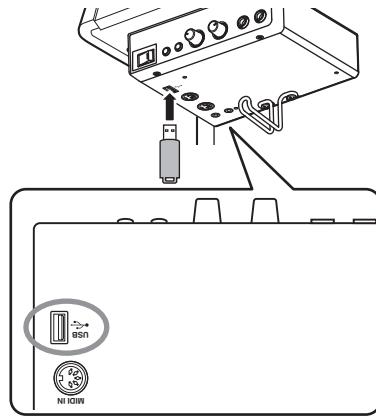
- 再生、一時停止中には録音ボタン (REC) は反応しません。
- USB メモリーが接続されている場合は USB メモリーに保存されているデータを再生します。
- 16 ページ「USB メモリーの曲を再生する」をご参照ください。
- 再生する曲がない場合は、3 連のチャイム音が鳴ります。

USB メモリーを接続する

本機に市販のUSBメモリーを接続して、録音済データを保存したり、USBメモリー内に保存した曲を再生したりすることができます。

スイッチボックス底面の左手のUSB端子に接続します。

自動的にUSBメモリー内容のチェックが始まります。チェック中はPLAY/STOPランプが橙色の早い点滅になり、終了すると薄い橙色に変わります。



ご注意

- USBメモリーについては、下記ウェブサイトをご確認のうえ、動作確認済みの機種をご使用ください。それ以外のUSBメモリーは動作保証ができません。また、故障の原因になることがあります。
<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/devicelist/>
- データ転送中のUSBメモリーの抜き差しや、電源のオン・オフをしないでください。故障の原因となることがあります。
- USBメモリーの頻繁な抜き差しをしないでください。故障の原因となることがあります。
- USBメモリーを接続しているときは、足に当たって破損しないよう、足元の動きに十分ご注意ください。
- USB端子に異物を入れないでください。使用できなくなります。
- USBメモリーを使用する前に、メモリーにプロテクトやソフトセキュリティがかかっていないかどうかお確かめください。プロテクトがかかっていると、メモリーにアクセスできません。
- 楽器本体上ではUSB 1.1に対応していますが、USB 2.0の機器を接続し使用できます。ただし転送スピードはUSB 1.1相当になりますので、ご了承ください。

録音済みのデータを USB メモリーに保存する

大切な録音データは、USB メモリーでバックアップを取った上で、コンピューターなどに保存することをお勧めします。USB メモリーに保存しておくと衝撃などでデータが消えるおそれがあります。

1 本機に USB メモリーを接続します。

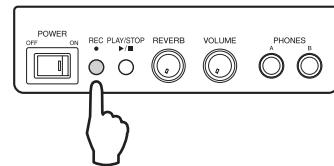
PLAY/STOP ランプが橙色に点滅し、メモリーの内容チェックが終わると薄い橙色に点灯します。

2 録音ボタン (REC) を押します。

本機は転送待機状態になり、REC ランプが赤く点灯、PLAY/STOP ランプが橙色に点滅します。

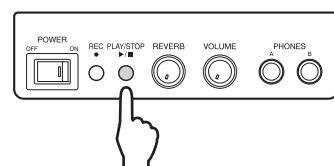
メモ

ここでもう一度録音ボタン (REC) を押すと、転送待機はキャンセルされ、通常の状態に戻ります。



3 再生／停止ボタン (PLAY/STOP) を押します。

PLAY/STOP ランプが速い点滅になり、内蔵メモリーから USB メモリーへのデータ転送を開始します。データ形式を変換しながら転送するため時間がかかります (65 キロバイトのフルサイズで約 3 ~ 4 分)。転送が終了すると REC ランプは消灯し、PLAY/STOP ランプは薄い橙色に戻ります。



メモ

- ・ 録音データは、USB メモリーの「USER FILES」というフォルダの中に「USERSONG**.MID」というファイルとして、最大 50 曲保存されます。** とは 00 ~ 49 の数字で、保存する順番に増えています。
- ・ 曲が溜まり、「USERSONG49.MID」まで達すると、本機ではこれ以上の保存はできず、エラーを通知します。
- ・ フォルダ内に「USERSONG50.MID」～「USERSONG99.MID」というファイルが 1 つでも存在する場合もエラーとなり、保存できません。
- ・ ファイルの削除は、USB メモリーをコンピューターに接続して実施してください。本機では削除することができません。

ご注意

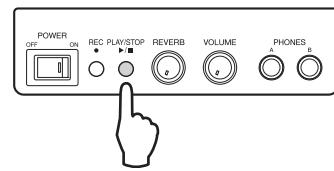
USB メモリーからコンピューターへデータを移動する際、ファイル名が同じ場合、過去に保存したデータに上書きされてしまうおそれがあります。上書きしてはいけないファイルの場合は、ファイル名を変更するなどして、上書きされないように操作をしてください。

USB メモリーの曲を再生する

本機にUSBメモリーを接続した状態で再生の操作（13ページ「内蔵メモリーに録音した曲を再生する」参照）をすると、USBメモリー内に保存した曲の再生になります。

USB メモリーを本機に接続した状態で再生ボタン（PLAY/STOP）を押します。

USBメモリー内に保存したファイルが見つからないとき、他に再生可能な曲（スタンダードMIDIファイル）があればそれを再生します。なければ停止状態に戻ります。



USBメモリーに複数保存されている曲を再生する場合は、試聴モードから操作できます。下記「試聴曲を再生する」をご覧ください。

メモ

- USBメモリーの「USER FILES」フォルダにある「USERSONG**.MID」の中で**の二桁の数字が最も大きい数字のファイルを再生します。通常は、本機で最後に保存した曲（**が00～49の中で最も大きい数字のファイル）が再生されます。
- **の数字が50～99の数字のファイルが存在する場合、その中で最も大きい数字のファイルが再生されます。
- 上記のファイルが見つからない場合、「USER FILES」フォルダ内、ルートおよび2階層までのフォルダからMIDIファイルをUSBメモリーへのデータ移動順に探し、再生します。
- 詳しい優先順序については、24ページ「MIDIファイルの再生順序」をご覧ください。
- 漢字等全角文字が入ったファイル名はエラーとなり再生できません。

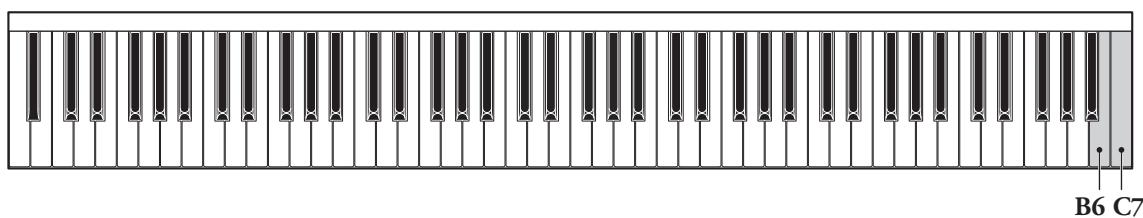
試聴曲を再生する（試聴モード）

本機に内蔵されている試聴曲（ピアノ名曲50選）を再生できます。

1 B6とC7（右端の白鍵2つ）を同時に押しながら電源をオンします。

2 電源をオンにしてから約1～2秒後に鍵盤を戻します。

自動的に第1曲目から再生が始まります。



■ 試聴モードを終了するには
電源を入れなおします。

■ 聞きたい曲を選ぶには（ダイレクト選曲）

- A-1を押しながら、C0からC#4間の選択する曲番号に相当する鍵盤を押します。
- 各曲に対応する鍵盤は23ページ「試聴曲一覧」をご参照ください。
 - 上記以外の鍵盤も同時に押してしまうと選曲されません。
 - 停止中に曲を選ぶと、次に再生するときに選択した曲から始まります。

■ 曲間を移動するには

1つ前の曲を選ぶにはF#6を、1つ後の曲を選ぶにはA#6を押します。

■ 早送りするには

再生中または一時停止中に、G#6を押しながらA#6を押します。

音を出しながら早送りができます。

■ 一時停止するには

再生中にC7を押します。

再開するにはC7を押します。一時停止時はC7かスイッチボックス前面の再生／停止ボタンを押す以外の再生操作は無効になり、鍵盤で演奏できる状態（演奏モード）になります。

■ 停止するには

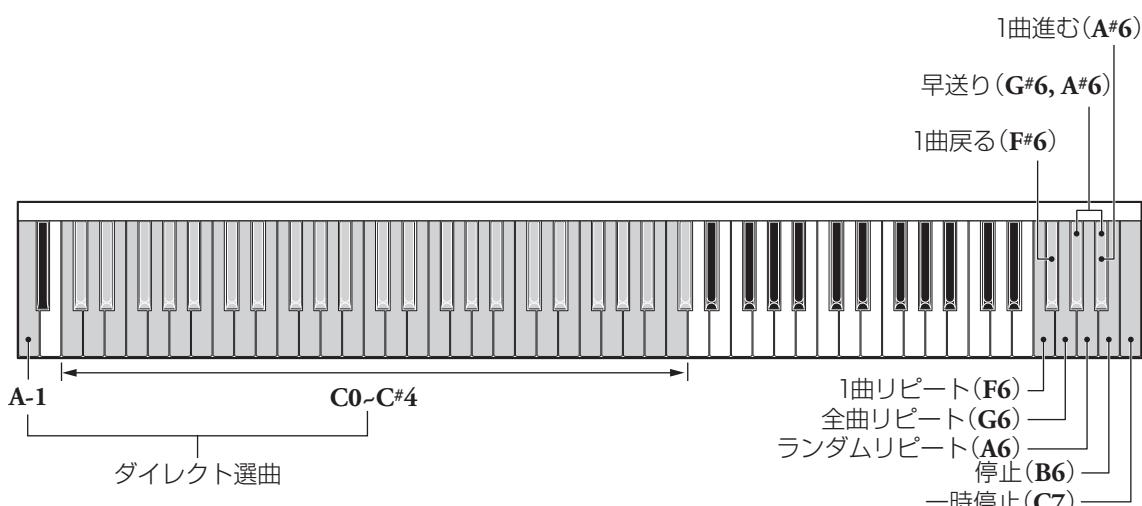
再生中にB6かスイッチボックス前面の再生／停止ボタンを押します。

再開するにはスイッチボックス前面の再生／停止ボタンを押します。

■ リピート（繰り返し）モードを設定するには

1曲をリピートするにはF6を、全曲をリピートするにはG6を、ランダム（任意の曲順で）リピートするにはA6を押します。

初期設定は全曲リピートです。



メモ

- 試聴曲モードにした後、再生・停止はスイッチボックスの再生／停止ボタン (PLAY/STOP) でも操作できます。
- 鍵盤を戻すタイミングによっては試聴モードにならないことがあります。
- USBメモリーが接続されているときは、内蔵の試聴曲ではなくメモリー内の曲を最大50曲まで再生します。曲順は、USBメモリーの「USER FILES」フォルダにある「USERSONG**.MID」の中で**の二桁の数字 (00~99) の小さい順に再生されます（通常は本機からUSBメモリーへデータを移動した順に再生されます）。この曲数が50曲に満たない場合、「USER FILES」フォルダ内、ルートおよび2階層までのフォルダからMIDIファイルをUSBメモリーへのデータ移動順に探し、再生します。
- メモリー内に再生する曲がない場合は、エラー通知のチャイム音が鳴ります。
- 詳しい優先順序については、24ページ「MIDIファイルの再生順序」をご覧ください。
- 漢字等全角文字が入ったファイル名はエラーとなり再生できません。
- 試聴モードでは本体への録音はできません。録音をする場合はもう一度電源を入れなおしてください。試聴モードでは録音データのUSBメモリーへの保存はできません。USBメモリーへの保存をする場合はもう一度電源を入れなおしてください。

他の機器との接続

他のオーディオ機器と接続する

ご注意

本機と他の機器との接続は、必ず両方の電源を切った状態で行ってください。

メモ

本機のAUX IN/OUT端子はステレオ・ミニジャックです。端子に対応したケーブルでない場合は変換アダプターが必要になります。ケーブル、アダプターは抵抗の無いものをお使いください。

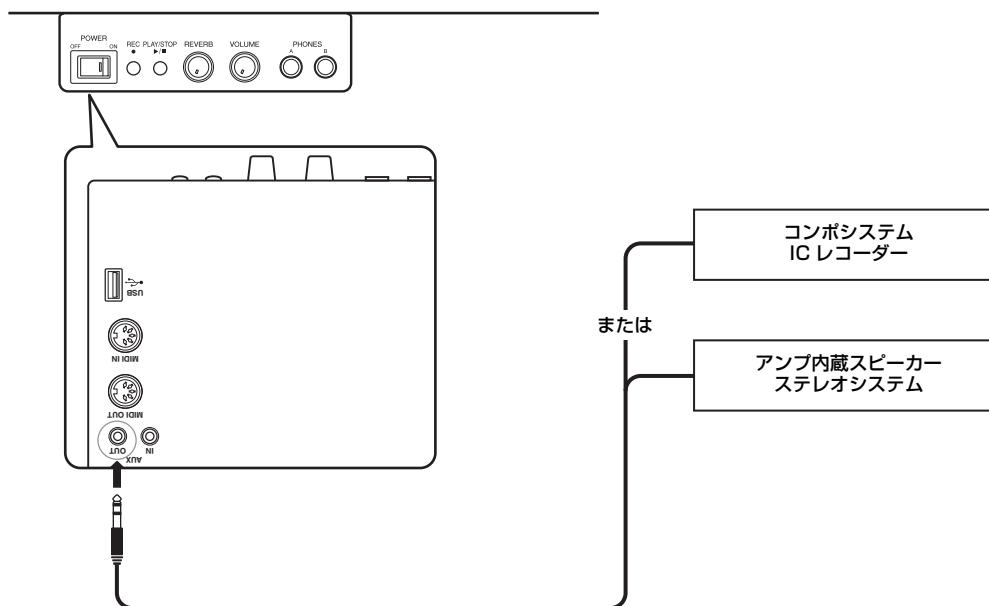
AUX出力（AUX OUT）端子の使用例

■ コンポシステムやICレコーダーを接続すると

本機の消音演奏を録音できます。

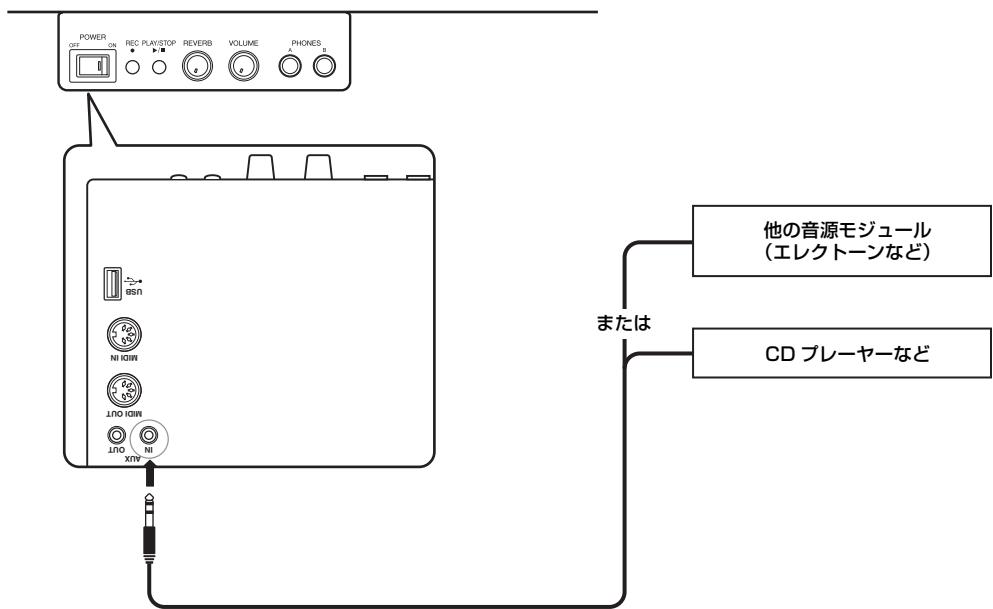
■ アンプ内蔵スピーカーやステレオシステムを接続すると

本機の消音演奏をスピーカーで聴けます。この端子からはヘッドフォンで聴くものと同じ音声信号が出力されます。



AUX 入力 (AUX IN) 端子の使用例

- 他の音源モジュールや再生機器 (CD プレーヤーなど) を接続すると接続機器からの入力音声に合わせて消音演奏ができます。本機の音量ツマミ (VOLUME) はAUX IN 端子から入力された音と、本機の電子音の両方を調整できます。2つの音声のバランスは、接続機器の出力音量で調整してください。



ご注意

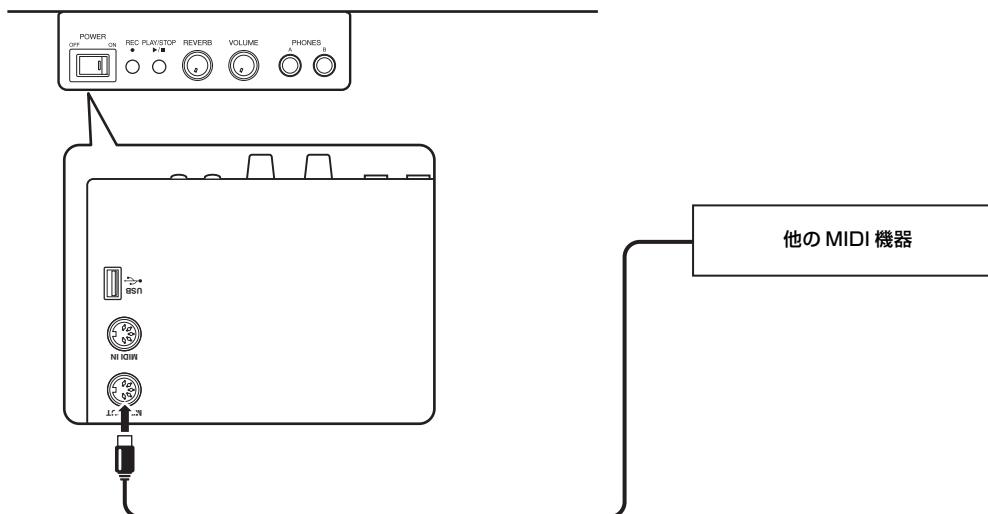
AUX OUT 端子にアナログ録音機器の入力端子を接続したときは、同時に接続先機器の出力端子と本機のAUX IN 端子を接続しないでください。オーディオ信号のフィードバック (発振) が起こり、両機器の故障の原因となります。

他の MIDI 機器と接続する

MIDI 出力 (MIDI OUT) 端子の使用例

■ 他の MIDI 機器を接続すると

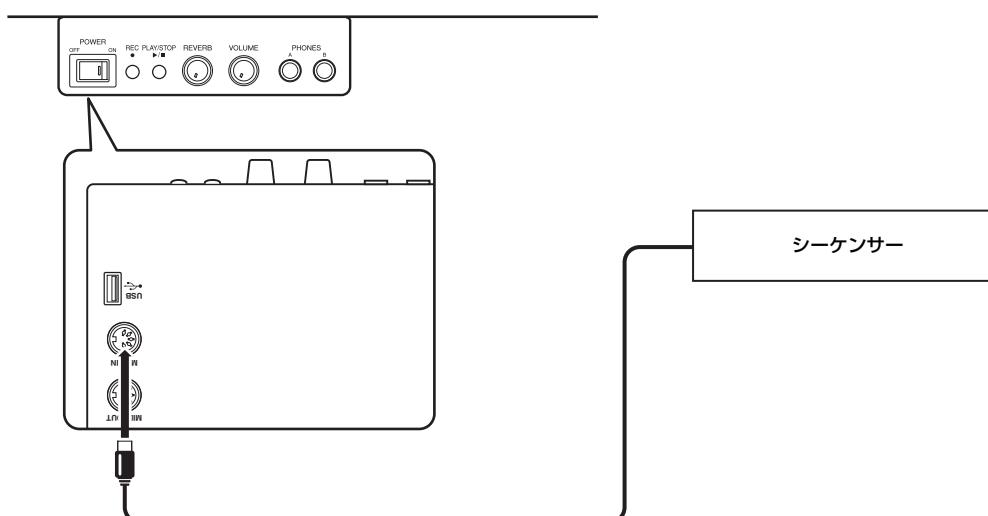
本機から演奏情報を送り、シンセサイザーなど他の MIDI 機器の音源で再生できます。



MIDI 入力 (MIDI IN) 端子の使用例

■ シーケンサーを接続すると

シーケンサーから演奏情報を受け取り、本機の音源で再生できます。



メモ

鍵盤、ペダルの演奏情報の他、音色切り替え、リバーブの深さの情報を送受信します。MIDI 送信は 1 チャンネル、受信は 1、2 チャンネルの両方となります。

その他の情報

故障かな？と思ったら

本機が正常に動作しない場合は、以下の項目をご確認ください。下記を試しても改善されなかったり、下記以外の異常がある場合は、お買い上げ店または最寄のヤマハ特約楽器店までご連絡ください。ご自分で本機およびACアダプターの内部を開けたり、分解、改造したりしないでください。

■ 電源を入れても音がしない。

- ACアダプターが抜けているかもしれません。確実に差し込んでください。
- 音量ツマミが左一杯の位置になっているかもしれません。適正位置に調整してください。標準音量は、音量ツマミが時計の3時の位置になるように設定されています。

■ 電源ランプは点灯するが音が出ない、ペダルがきかない。

- スイッチボックス背面にあるキーセンサーとペダルセンサー端子の接続が抜けているかもしれません。スイッチボックス下側の印字(KEY、PDL)にそれぞれ対応する端子(KEY、PDL)を確実に差し込んでください(6ページ)。

■ 消音演奏時にも生ピアノの音が出る。

- 極度に強く打鍵すると生ピアノの音が出ることがあります。打鍵の強さを加減してください。

■ 市販のヘッドフォンで聴くと音のバランスが異なる。

- ヘッドフォンの種類によってそれぞれ特性が異なるため、ヘッドフォンによってはバランスが異なることがあります。

■ 市販のヘッドフォンで聴くと音量が異なる。

- ヘッドフォンの種類によってそれぞれ特性が異なるため、ヘッドフォンによっては音量が異なることがあります。

■ 消音演奏時にピアノの本体からカタカタという音がする。

- 故障ではありません。アコースティックピアノ本来の打鍵音です。

■ 消音演奏の連打時に演奏と異なる強音が発音する。

- 消音ユニットの構造上発生する場合があり、故障ではありません。

■ リバーブがかからない。

- リバーブ深さツマミが、左一杯の位置になっているかもしれません。ツマミを右に回して、適度な深さに設定してください。

■ 音が残りすぎる。(残響がかかりすぎる。)

- リバーブ設定、DDE設定が深すぎるかもしれません。適度な深さに設定してください(10、11ページ)。

■ 他の楽器とピッチが合わない。

- 本機はピッチを調整して他の楽器に合わせることができます(10ページ)。

■ 再生も録音もしていないのにパネルのボタンが点灯している。

- USBメモリーが接続されているとき、ボタンが薄く点灯します(14、15、16ページ)。

■ USBメモリーが反応しない。

- 一度本機から外し、再び接続してください。
- USBメモリーを端子に接続したときにPLAY/STOPランプが橙色に点滅するか確認します。ランプが点滅しなければ、そのメモリーは壊れている可能性があります(14ページ)。
- お使いのUSBメモリーが動作確認済みの機種かどうかを確認してください(14ページ)。

■ 試聴モードで電源を入れたとき、USBメモリーを接続しているのに内蔵試聴曲が少し再生され、その後USBメモリーの曲が再生される。

- ご利用のUSBメモリーによっては認識に時間がかかり、認識中に内蔵試聴曲が再生されることがあります、故障ではありません。

■ USBのデータを再生できない。

- 曲のMIDIファイルデータが大きすぎるとロードできず、再生するとエラーとなる場合がありますが、故障ではありません。

エラー通知について

本機では、以下のようなエラーが発生したときに3回連続のチャイム音と2つのランプの速い点滅でお知らせします。エラー通知は、録音ボタン (REC) か再生／停止ボタン (PLAY/STOP) を押すと停止します。

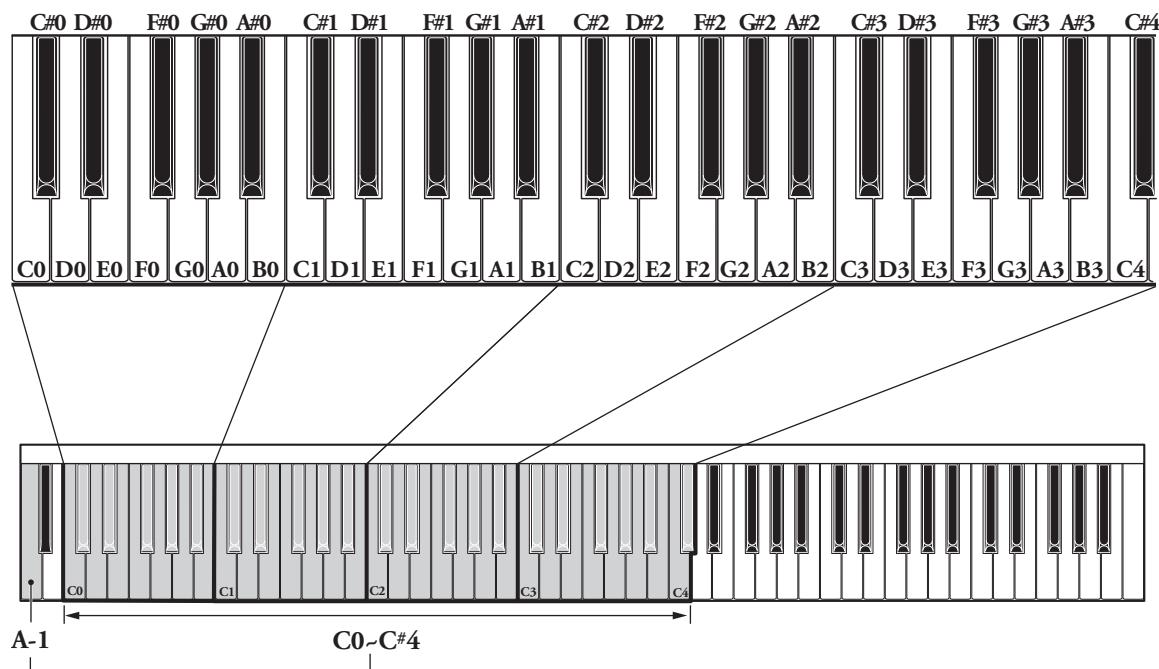
- ・ USB メモリーが壊れているのでアクセスできません。
- ・ 曲データが壊れています。
- ・ ファイルが大きすぎて読み込みできません。
- ・ 処理中に電源が切られたため、内蔵メモリーが初期化されました。ご自身で録音した曲が消去されています（初期化中は、エラー通知を停止することはできません）。
- ・ USB メモリーの容量がいっぱいです、曲を保存できません。
- ・ USB メモリーがライトプロテクト（書き込み禁止）されているようです。

音色一覧

音色名	鍵盤	音色の特長	バリエーション
ピアノ	C4	フルコンサートグランドピアノCFIIISからサンプリングしました。繊細なピアニシモから、迫力あるフォルテシモまで、幅広い表現が可能です。ダンパー・ペダル使用時の弦の共鳴による広がり感も再現しています。	ピアノではバリエーション設定はありません。 左ペダルは、ソフト（シフト）ペダルの効果がかかります。
ハープシコード	D4	バロック音楽で使用された音です。タッチによって音量、音色が変化しません。鍵盤を離した時に独特の音が発生するところもリアルに表現しています。	オクターブ上の弦の音がミックスされ、より華やかな音となっています。
ビブラフォン	E4	比較的柔らかなマレットで叩いたビブラフォンの音です。	ファンを回転させて、ビブラートをかけた音です。
パイプオルガン	F4	バッハの「トッカータとフーガ」で有名な壮麗なパイプオルガンの音です。	バロック時代の教会音楽に適した、プリンシバル系の落ち着きのあるパイプオルガンの音です。
チェレスタ	G4	チャイコフスキー「くるみ割り人形」の中の「こんぺいとうの踊り」などで有名な鍵盤式の鉄琴です。オルゴールのようなかわいらしい音が魅力です。ピアノよりも音域を1オクターブ上にしてありますので、チェレスタならではの魅力的な高音を楽しむことができます。	音域をピアノと同じに合わせてあります。
ストリングス	A4	雰囲気一杯の弦楽合奏の音です。ピアノ音とデュアルで音を重ねても効果的です。	音の立ち上がりを少しだらかにしました。
エレクトリックピアノ1	C#4	FM シンセサイザーによる電子ピアノで、ポップスで広く使用されるタイプの音です。ピアノ音とデュアルで音を重ねても効果的です。	コーラス効果が付加されて、空間的な広がり感が増します。
エレクトリックピアノ2	D#4	金属板をハンマーで叩く電気ピアノの音です。弱打の柔らかい音から強打のやや歪んだ音まで、ダイナミックに変化します。ポップスやジャズで多用されています。	フェイザー効果が付加されて、空間的な広がり感が増します。
ジャズオルガン	F#4	歯車回転式の電気オルガンの音です。ジャズやロックで広く用いられます。	左ペダルを踏むと、ロータリースピーカー（ビブラート）のスピードが、高速に切り替わります。
クワイア	G#4	空間に広がる合唱の音です。ピアノ音とデュアルで音を重ねても効果的です。	音の立ち上がりを少しだらかにしました。

試聴曲一覧

曲番号（鍵盤）	曲名／作曲者名	曲番号（鍵盤）	曲名／作曲者名
1(C0)	インベンション第1番／バッハ	26(C#2)	革命のエチュード／ショパン
2(C#0)	インベンション第8番／バッハ	27(D2)	小犬のワルツ／ショパン
3(D0)	ガボット／バッハ	28(D#2)	ワルツ第7番／ショパン
4(D#0)	前奏曲（平均律第1巻第1番）／バッハ	29(E2)	ワルツ第9番「告別」／ショパン
5(E0)	メヌエットト長調／バッハ	30(F2)	夜想曲第2番変ホ長調／ショパン
6(F0)	かっこう／ダカン	31(F#2)	トロイメライ／シューマン
7(F#0)	ピアノソナタ第15番第1楽章／モーツアルト	32(G2)	楽しき農夫／シューマン
8(G0)	トルコ行進曲／モーツアルト	33(G#2)	乙女の祈り／バダジエフスカ
9(G#0)	メヌエットト長調／モーツアルト	34(A2)	人形の夢と目覚め／オースティン
10(A0)	リトル・セレナーデ／ハイドン	35(A#2)	アラベスク／ブルグミュラー
11(A#0)	ソナタ第1番 終楽章「無窮動」／ウェーバー	36(B2)	牧歌／ブルグミュラー
12(B0)	エコセーズ／ベートーヴェン	37(C3)	貴婦人の乗馬／ブルグミュラー
13(C1)	エリーゼのために／ベートーヴェン	38(C#3)	愛の夢第3番／リスト
14(C#1)	トルコ行進曲／ベートーヴェン	39(D3)	花の歌／ランゲ
15(D1)	「悲愴」第2楽章／ベートーヴェン	40(D#3)	舟歌／チャイコフスキ
16(D#1)	「月光」第1楽章／ベートーヴェン	41(E3)	ヘ調のメロディ／ルビンシュタイン
17(E1)	ピアノソナタ第20番ト長調第1楽章／ベートーヴェン	42(F3)	ユーモレスク／ドヴォルザーク
18(F1)	即興曲作品90第2番／シューベルト	43(F#3)	タンゴ（スペインより）／アルベニス
19(F#01)	楽興の時第3番／シューベルト	44(G3)	エンターテイナー／ジョプリン
20(G1)	春の歌／メンデルスゾーン	45(G#3)	メイブル・リーフ・ラグ／ジョプリン
21(G#1)	狩人の歌／メンデルスゾーン	46(A3)	亜麻色の髪の乙女／ドビュッシー
22(A1)	幻想即興曲／ショパン	47(A#3)	アラベスク第1番／ドビュッシー
23(A#1)	雨だれの前奏曲／ショパン	48(B3)	月の光／ドビュッシー
24(B1)	黒鍵のエチュード／ショパン	49(C4)	夢／ドビュッシー
25(C2)	別れの曲／ショパン	50(C#4)	ケーキウォーク／ドビュッシー



A-1を押しながら、聴きたい曲番号に相当する鍵盤を押します。

各音色の MIDI データ (プログラムチェンジナンバー)

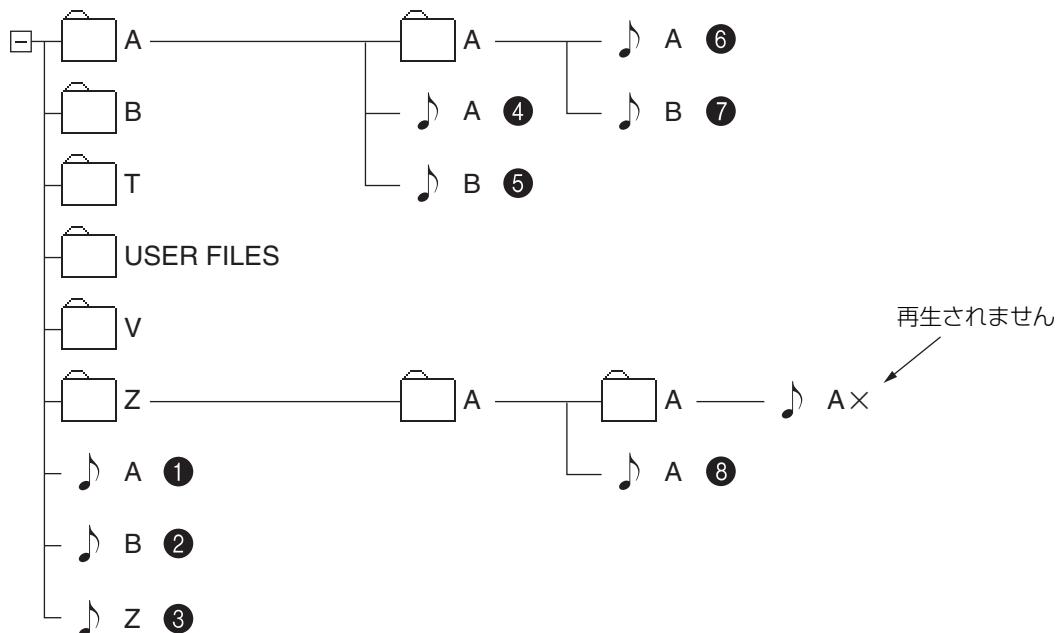
音色名	MSB	LSB	P.C.#
ピアノ	0	112	1
ハープシコード	0	112	7
同上 (バリエーション)	0	113	7
ビブラフォン	0	112	12
エレクトリックピアノ1	0	112	6
エレクトリックピアノ2	0	112	5
パイプオルガン	0	112	20
同上 (バリエーション)	0	113	20
チェレスタ	0	112	9
同上 (バリエーション)	0	113	9
ジャズオルガン	0	112	17
ストリングス	0	112	49
同上 (バリエーション)	0	113	49
クワイア	0	112	53
同上 (バリエーション)	0	113	53

MSB, LSB (Bank Select), 0 ~ 127
P.C.# = Program Change Number, 1 ~ 128

MIDI ファイルの再生順序

16ページにおいて「USERSONG**.MID」が見つからない、あるいは50曲に満たない場合の、
「USER FILES」検索後の再生順序例

- ルートおよび2階層までのフォルダからMIDIファイルをUSBメモリーへのデータ移動順に
探す順序例



仕様

音色	ピアノ、ハープシコード、ビブラフォン、パイプオルガン、チェレスタ、ストリングス、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ジャズオルガン、クワイア（合唱）
最大同時発音数	64音／ステレオサンプリング32音／16音（ダンパーペダル共鳴効果あり）*
センサユニット	連続検出キーセンサー 連続検出ダンパーペダルセンサー ON/OFF検出ソフトペダルセンサー (RSG-5: ON/OFF検出ソステナートペダルセンサー)
コントロール・機能	電源スイッチ、音量ツマミ、リバーブ深さツマミ、音色切り替え、ブリリアンス調節、リバーブ種類切り替え（4種類）、ピッチ調整、DDE調整（ダンパーペダル共鳴）、オールリセット、録音、再生
試聴曲	ピアノ名曲50選（プリセット曲）
端子	ヘッドフォン端子（2:標準ジャック）、電源入力端子 DC IN、AUX IN/OUT（ミニジャック）、MIDI IN/OUT、USB TO DEVICE
定格電源	AC100V (50/60Hz)
定格消費電力	DC12V 8W
付属品	ACアダプター（PA-150AまたはPA-150B）、ヘッドフォン、ヘッドフォンハンガー、楽譜集「ピアノ名曲50選」

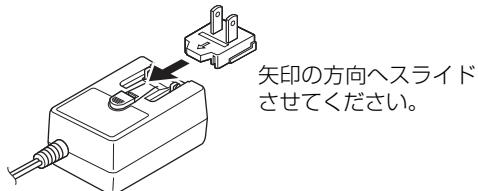
* 64音: エレクトリックピアノ2、ジャズオルガン
16音: パイプオルガン（バリエーション時を除く）、ハープシコード（バリエーション時のみ）
32音: 上記以外の音色

■ 電源アダプター 使用上の注意 (PA-150B)

プラグ部分が外れるタイプの電源アダプターをお使いの場合は、安全にお使いいただくため、下記の注意事項をお守りください。

電源アダプターのプラグが外れてしまった場合

金属部分には手を触れず、再度、カチッと音がするまで完全に差し込んでください。



警告

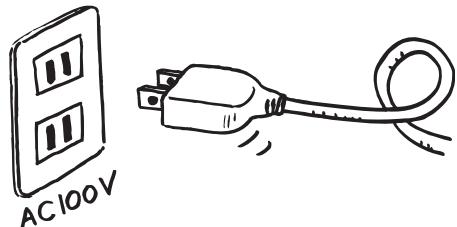
- 電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。特に、プラグ部分だけで使用すると、感電や火災の原因になります。
- 取り付ける際、金具部分は触らないでください。また異物が入らないように注意して取り付けてください。感電やショート、故障の原因になります。

取り扱いについて

ここに記載されているイラストは、お客様が購入された製品と形状が異なる場合があります。

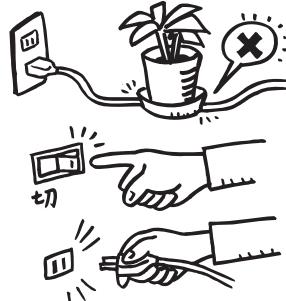
■ 電源について

必ず AC100V (50Hz または 60Hz) のコンセントに接続してください。AC100V 以外のコンセントには接続しないでください (本機は日本国内仕様です)。長期間ご使用にならないときは、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。



■ AC アダプター、ヘッドフォン等のコード類について

コードの上に物を置いたり、ピアノの蓋に挟みこんだりしないでください。コードを抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。コードを抜くときは、断線やショートを防ぐため、必ずプラグを持って行ってください。



■ 落雷のおそれがあるときは？

早めにコンセントから AC アダプターの電源プラグを抜き取ってください。



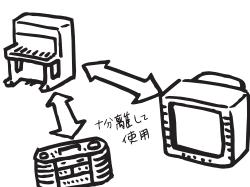
■ 水に濡れたときは？

万一雨がかかったり、水をこぼしてしまったときは、すぐ電源プラグを抜き、販売店にご連絡ください。また、煙やスプレーなどがかからないよう、ご注意ください。



■ 他の電気機器への影響は？

本機の近くでラジオ・テレビなどを同時に使用すると、ラジオ・テレビ側で雑音などが生じことがあります。十分離してご使用ください。



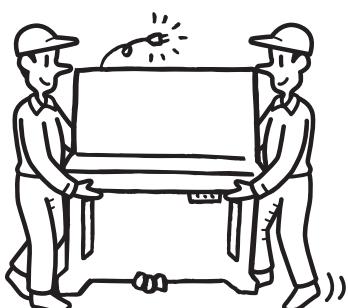
■ 故障かな？と思ったら

AC アダプターがきちんと接続されていなかったり、意外なところで操作を誤っている場合があります。本書 21 ページ「故障かな？と思ったら」をご参照ください。



■ 移動するときは？

AC アダプター、コード類をすべて外してから移動します。ピアノの運搬・移動は専門の業者に依頼することをおすすめします。



■ 廃棄するときは？

消音ユニット付きのピアノの廃棄に関しては、自治体のルールに従ってください。

MIDI インプリメンテーションチャート

Date : 2006.07.10
Version : 1.00

ファンクション	送 信	受 信	備 考	
ベーシック チャンネル	電源オン時 設定可能	1 ×	1+2 ×	
モード	電源オン時 メッセージ 代用	3 × * * * * * * * * *	3 × ×	
ノート ナンバー	音域	21-108 * * * * * * * * *	21-108 21-108	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○9nH, v=1-127 ×8nH, v=40H	○v=1-127 ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	×	×	
ピッチベンド		×	×	
コントロール チェンジ	0, 32 1 7 10 11 64, 67 66 91	○ × × × × ○ × (○*) ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	パンクセレクト ミュレーション ボリューム パンポット エクスプレッション ペダル ソステナートペダル エフェクト デブス
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ * * * * * * * * *	○	
エクスクルーシブ		×	×	
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	×	×	
リアル タイム	クロック コマンド	×	×	
その他	オール・サウンド・オフ リセット・オール・コントロール ローカルオン／オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センス リセット	○ × × × ○ ×	○(120,126,127) ○(121) ○(122) ○(123-125) ○ ×	
備考				

モード1:オムニオン、ポリ

モード2:オムニオン、モノ

○:あり

モード3:オムニオフ、ポリ

モード4:オムニオフ、モノ

×:なし

* ソステナートペダル搭載モデルの場合

保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書に記入されたお買い上げの日付から1カ年です（現金、ローン、月賦などによる区別はございません）。また保証は、日本国内にてのみ有効といたします。

保証書

保証書をお受け取りのときは、お客様のご住所、お名前、お買い上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効となりますので、くれぐれもご注意ください。

保証書は大切に保管しましょう

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客様に、保証規定に則り、お買い上げの日から向こう1カ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮のうえで保管してください。また、後々のサービスに際しての機種の判別や、サービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整いたします。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいはヤマハ窓口にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料になりますが、引き続き責任をもってサービスさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明な点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

消音ユニット付きピアノの廃棄に関しては、自治体のルールに従ってください。なお、弊社ではすでに取り付けられた消音ユニットの取り外し業務は行っておりません。

本機についてのお問い合わせは、最寄りのヤマハピアノ特約店／下記のヤマハへ

◇ピアノの機能や取り扱いについてのお問い合わせ

最寄りの特約楽器店、または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター ピアノご相談窓口

ナビダイヤル **0570-003-808**

上記番号でつながらない場合は053-460-4835へおかけください。

受付時間 月～金 10:00～17:00（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の定休日を除く）

<http://jp.yamaha.com/support/>

◇ピアノの修理についてのお問い合わせ

お買い上げ店、または下記ヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル **0570-012-808**

上記番号でつながらない場合は053-460-4830へおかけください。

受付時間 月～金 10:00～17:00（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の定休日を除く）

◇その他、本機全般についてのお問い合わせ

株式会社ヤマハミュージックジャパン 楽器営業本部 マーケティング部 ピアノ・EKB課

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL 03-5488-5442

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

Manual Development Group

2017年3月 改訂 MWNB-IO

カタログコード PPT512

X982610